紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニューズレター 1

2016 年 11 月 7 日発行

香川大学大学院
教育学研究科
高度教職実践専攻
〒760-8522
高松市幸町１－１

香川大学
KAGAWA UNIVERSITY

専攻長あいさつ

有馬 道久

平成 28 年 4 月に教職大学院を開設して半年が過ぎようとしています。この間、15 名の担当教員と 15 名の第一期生が試行錯誤しながら、少しずつ香川大学らしい教職大学院の形を作ってきました。しかしまだ、その認知度は高くないようで、「そもそも教職大学院って何ですか」とか、「現職教員も実習があるんですか」といった質問を受けることがあります。そこで、新しくニュースレターを発行して、教職大学院とは何か、何をめざしているのかなどについて定期的にお伝えすることにしました。

現在、全国に 45 の教職大学院がありますが、カリキュラムの面で共通したところもあれば、各大学独自の授業科目や取組もあります。ここでは、これまでの修士課程との違いや本学教職大学院の特色、大学院生の学びの様子、その時々に力を入れて取り組んでいること、そして、入試や公開行事に関する情報等をお伝えしたいと考えています。

そして、教職大学院に対する多様なご意見やご質問をいただくことで、新たな協働を生み出し、地域の教育に寄与したいと考えています。

Voice of graduate students 院生の声

教職大学院での学び

学校力開発コース
益田 健二

この香川大学教職大学院に来るきかっけは教職大学院の 2 本柱の内，特に「通常の学級にいる支援の必要な生徒の指導」に興味を持ったことが始まりでした。前期の講義は終わりましたが，もうすでに多くの分野での学びがありました。カリキュラムマネジメント，特別支援教育，子ども理解のためのアセスメント，生徒指導，道徳教育など今まで知らなかったこともあれば，実践してきたことが理論で裏付けられたりすることもありました。大学での学びを学校現場で活かすため，特別支援教育を学校組織で取り組む方法について研究を進めています。現場を離れることで，大学に来てから本を読む機会が増えましたが，現在は『特別支援教育「校内研修」ハンドブック』という本を参考資料としてよく読んでいます。置籍校の先生方の話を聞きながら，少しでも現場の先生の力になれればと考えています。

学校現場を離れて・・・

授業力開発コース
宮本 陽子

前期授業で、自分が学級の子ども達をどのような視点で見ているかを分析できる教師用 RCRT を体験しました。一人ひとりの子どもを多様な側面から見ている自分に気付くことができ、自分の学級経営とじっくり向き合い、子ども理解について省察することができたように思います。また、この1年間をうまく利用して、大学の授業だけでなく、興味を持った全国で行われている算数関連のイベントや UD 学会に時間を見つけては参加しています。学校行事や授業研究に追われ、狭い世界での日々を過ごしていましたが、先日参加した授業 UD カレッジでは、他県の先生方と話す機会もあり、香川県以外の学校の話を聞くことができました。今後は、大学で学ぶ理論が実践に結び付き、往還させることができるように、「分かったつもりにはしない、子どものつまずきを大切にした授業」を目指して、研究を進めていきたいと思っています。

新しい出会いを通して

特別支援教育コーディネーターコース
住田 伸英

これまでに、教職大学院で得たものは多くあるが、特に「出会い」を挙げたい。出会いの中には人との出会いや新たな知識との出会いがある。これまでの実践の裏付けとなる知識や、自己研修だけでは得にくい新たな実践事例や理論と出会い学ぶことができている。

また、大学の先生方、ともに切磋琢磨し合う仲間、医療機関や異校種での現場実習での出会いがある。実習先では学校勤務では経験できない専門的な内容が多く、これまでの指導を振り返る良い機会となっている。特に、医療機関の実習において、特別支援教育の自立活動の具体的な指導方法について、教具を使って説明していただき今後の実践の参考になった。後期では前期に学んだ専門的な学びを、自身が探求したい内容につなげて、学びの質をより深めていきたいと思う。

Self-introduction by members　教員紹介

学校力開発コース
特命准教授　松井 保

学校力開発コースの実務家教員として、学校経営・教育課程を中心にお手伝いをしています。

早いもので、県下の小・中学校、高松市教委等で勤務し、定年退職してから4年が経過しました。退職後は、高松市総合教育センターで各種研修会や校内研究会のお世話をしながら、旧知の先生方・若い教職員の方々と改めて親交を深める日々を送ることができました。

今回、大学での3年間にわたる「教育実践集中講座」を通じての関わりもあってか、母校でお仕事をする機会を与えていただきました。附属高松中学校で勤務していた頃には恩師である大学の先生方との交流もあったのですが、何といっても年月が経っているので、ちょっと浦島太郎の気分を味わっている昨今です。

幸いなことに、高校・大学、そして部活動指導の場で親しんできた剣道の稽古に、退職後また久しぶりに取り組んでいます。大学剣道部の後輩諸兄諸姉との交流も楽しみながら、講義と研究にしっかり精進したいと思っています。

学校力開発コース
特命教授　野村 一夫

私は、戦後新たに導入された「開放性教員養成制度」による教職課程で教員免許を取得し、香川県公立小学校の教員として採用されました。新規採用から5年間は、がむしゃらに学級担任として取り組んでいたものの、学習指導や生徒指導などで悩むことも多くありました。そうした時、大学院への内地留学生として派遣される機会に恵まれ、教育課程論や教育方法、教育工学等の理論を学ぶことができました。これまでの教員生活を振り返ると、学校での実務を経験した後に学んだ2年間は、とても有意義でした。常に研究的な視座をもち、理論を具現化するために実践することの大切さを実感できたことが、その後の教員生活の礎になったと思います。

縁あって香川大学教職大学院に着任し、「理論と実践の往還」により、これからの学校教育を支える人材養成に関わることができるのは、望外の喜びです。大学院生とともに、理論を実践するための課題を整理し、具現化に向けた工夫や在り方を追究していきたいと考えています。

授業力開発コース
准教授　齋藤 嘉則

初任地は、宮城県沖の離島にある中学校でした。漁船の無線電波のためかラジオの受信状態があまりよくないなか、NHKラジオの「英語会話」を聴いていたことが懐かしく思い出されます。それから34年、香川大学教職大学院の准教授として採用していただき、この4月に着任いたしました。専門は、道徳教育、英語教育です。職歴は、公立中学校教諭、教頭、校長の職をつとめ、その間、仙台市教育委員会指導主事、教育指導課長、文科省初中局教科書調査官（外国語）、さらに、宮城教育大学教職大学院准教授を経て現在に至っています。ここに至る過程で、教職とは、人がものを学び、そして、成長していく喜びを子どもとともに創り出す崇高な職であるという思いが強くなりました。教師は、まず自身がよく学び、そして、子どもの学びを確かな方向に導くことが必要です。そのための理論と実践のバランスのとれた教育研究機関としての教職大学院の機能を充実させるため、微力ながら尽力したいと思っております。よろしくお願いいたします。

Room for graduate students　院生室紹介

院生室では、各自に机と鍵付きロッカーが割り当てられているほか、教材スペースや飲食スペースなどがあります。教材スペースでは、ラミネーターや裁断機、パソコン、プリンターのほか簡単な文房具があり、院生室で教材を作ることができます。飲食スペースには、冷蔵庫や電子レンジ、電気ポットがあります。また、院生室の無線 LAN を活用して、論文等の検索が可能です。

院生室は、自分の研究について調べたり準備したりする研究の場であるとともに、コースを越えて様々な話ができる憩いの場ともなっています。

院生室の様子

教職大学院に関する情報は http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~kyoshoku/